

令和5年度 第2回 室蘭市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画策定協議会議事録

1. 開催日時 令和5年10月19日（木）午後3時から午後5時10分

2. 開催場所 室蘭市役所2階3号会議室

3. 出席委員 佐藤会長、吉田委員、横山委員、桑田委員、亀田委員、牧口委員、阿部委員、吉谷委員、山本委員、佐久間委員、井脇委員、鷺津委員、野橋委員、野上委員

欠席委員 川島委員

事務局 西館保健福祉部長、中澤保健福祉部次長、今野主幹〔高齢福祉課〕、葛西係長〔介護保険係〕、島田主査〔福祉総務係〕、田中係長〔介護認定係〕

4. 会議内容

(1) 開会

事務局

ただいまから第2回室蘭市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画策定協議会を開催いたします。本日の会議には、ご多忙中にもかかわらず、ご出席をいただきありがとうございます。私 室蘭市高齢福祉課の島田と申します。本日は皆様に事前に資料を送らせていただいておりますがお手もとに次第と資料はございますか。本日は川島委員がご欠席と伺っておりますのでよろしくお願いいたします。続きまして、H委員から事前資料についてご説明があるため、よろしくお願い致します。

H委員

セミナーのご案内

事務局

ありがとうございました。それでは前回の策定協議会に参加されていなかったJ委員に自己紹介をお願いしたいと思います。よろしくお願い致します。

J委員

自己紹介

事務局

ありがとうございました。それでは早速議事に入りたいと思いますので、佐藤会長よろしくお願い致します。

佐藤会長

皆さんこんにちは。今回は色々なお話をさせていただきましたが、今日からJさんよろしくお願いたします。冒頭にFさんの方から配布資料がありますので、こちらの解説をよろしいですか。

F 委員

早速発言させていただきありがとうございます。資料に沿って私の望むところを説明させていただきます。今回の資料でいただいた、第9期の基本目標の1、2、3はその通りなのですが、これを一つ一つ解決していくのは莫大なエネルギーもいるし、資源も相当かかると思います。しかしながら、こういう課題を見積もっていくと言葉の中にある一石二鳥とか芋づる式とかという言葉がありますが、その課題一つ一つの先を見つめていくと一つにたどり着くと思います。

今回の目標の3つを辿っていくと、自らの健康は1回目の協議会資料の8ページの中で謳っていますが、自身が健康になると自己肯定感も高まるとすごく良い資料があります。そういうことで、健康をどう獲得していくかということなのですが、これも1回目の協議会資料を何回も見てみると、自身の体を動かすこと。そして、人の輪に入って充実感を得ることという2点が読み取れる。ここがすごく大事ななと思いました。体を動かす教育がどういうことかということ、人は生き物で動くようにできていて固定しては生きられない。1つの場所では生きられない。そして動くことによって体力が養われ、動かないと退化することは天の理となっている。例えば、無重力の状態だと筋肉を全く使わないので歩くことすらできない。したがって歩くことで健康になれると多くの専門家が発表しております。この歩くシステムの導入をぜひ提案したいと思います。対応として室蘭市民対象で、万歩計を持って歩いて歩数によってポイントをつけると、年間総歩数に対する商品券を交換する。年間最高ポイントで大体1,000円ぐらいの商品券と交換することができ、これを一つの目標にするということが大事ではないかなと思います。この歩数というのは、本人に対応して、申請人の紛失だとか損壊、保証金をいただきながらというふうに対応していけばいいかなと思っております。

二つ目、人の輪に入り充実感を得るということは、第1回の資料の11ページにあります。自発的にボランティアやサークルに参加して、まち美化ボランティアというのがあります。これは225のボランティアがあつて全部合わせると、公が設定している会議や自治会の活動、約2.5倍の状況が確認されます。自由で自分に合った発想がボランティア参加を多くしていると考えられます。ボランティア参加を活発に広げることで、交流が増え、経済活動も向上すると思われ。対応として、室蘭市認定ボランティアグループの参加出席ごとにポイントをつける。市の公共性の高い清掃活動などは公園の清掃は人が集まらなくて本当に困る部分もあるのですが、こういう公共性の高いボランティア活動にはプラスポイントをつけていくという発想も大事ではないかなと思います。

最後に支え合う暮らしについて、将来的に介護施設の入居者を対象とした、散歩支援ボランティアというのを使っていたきたいと思います。このセンターを開設して、各介護施設から依頼を集約して、会に連絡調整する。オレンジリングというのがあり、認知症に対する接触の仕方など、全国的に講習会の組織があります。このオレンジリング講習会済みの資格制ということでその会員となる。これについては、プラスポイントを付加していく。

自分で判断して介護施設に入居するというのはほとんどなく、家族が判断したり、最も近い身近な人が判断したりして入居することが大半となっています。入居したらほとんど散歩する機会がなく、じっと部屋に閉じこもっている。極端な例は用を足して戻ってきたら、壁の正面に車椅子を停めて入居者の方は四六時中壁に向かって座っている。そしたら認知症が進むのは明らかで、そういう状態が実際ある。そういうことで、入居者も歩くという楽しみも入れながらそれを支えていくボランティアが必要ではないかなと思っています。

最後になりますが、事業は予算も必要になります。市民全体の健康改善に赤い共同募金の資金も活用できるのではないかと思います。何よりも室蘭市の予算の組み入れをお願いしたいと思いますので、ぜひこういう趣旨を第9回の計画に組み入れていただければ、本当にありがたいと思っています。

佐藤会長

ありがとうございました。非常に綺麗な資料をご用意いただいて、この緑のところの目的はそれぞれ最もだなあと感じていました。具体的なアイデアをいただきまして、ポイント制やボランティアの参加などを提案していただいています。私の理解ではこの会はそこまで具体的なところを決める会ではなくて、こういったアイデアを市の方で参考にさせていただいて、この会議体では大枠を決めて、いただいたアイデアをうまく市の方で施策にさせていただくというふうな理解でよろしかったですか。

事務局

そうです。Fさんからいただいたアイデアを組み入れられるところを検討しながら、充実させていきたいと思っています。

佐藤会長

ありがとうございます。それでは議事に入りますが、今日は大きく三つに分かれます。基本理念と施策体系、施策の課題についての地域包括ケアシステムと人材確保という形で3点です。まず1点目、基本理念と施策体系案について事務局からご説明をお願いします。

事務局より説明

基本理念と施策体系について

佐藤会長

ご説明ありがとうございます。まず基本理念ということで前回最後に皆さんからもらったキーワードをもとに市の方で理念案 1 と 2 を出していただいています。まずこちらから話した後に、目指す姿にいきたいと思います。ご意見いかがでしょうか。

M 委員

基本理念があって基本目標という順番がありますので、①についても②についても、こんなに細かい言葉を入れてしまうと、理念と基本目標が同列になる感じがします。例えば「いきいきと」というのが①にあって、基本目標 1 にも「いきいきと」というものがあります。それから必要な支援っていう部分がありますが、基本目標 2 のところにやっぱり「必要な介護サービス」が。それから、②の「多世代」というところですけども、基本目標 3 にも入っている。そうすると、あえて基本理念にそういうような言葉を入れない方が、もっとこう大きくくり基本理念をしておかないと、細かいところ、同列になってしまう気がします。例えばですが、「ともに支え合い安心に暮らせるまち」くらいの大きなものにしておかないと駄目かな、と思います。それで、質問が 2 つあって、総合計画にある「みんなが創る」という言葉を入れなければ駄目なのか、違和感があります。それから、高齢者の計画なのだから、高齢者がっていう主語をあえて入れる必要があるのかという、この 2 点が質問です。

佐藤会長

ご意見ありがとうございます。そうですね。目指す姿にある言葉を全部理念に挙げている。その辺も含めて事務局いかがですか。

事務局

確かに基本理念と目標というのが細かすぎるというのは、その通りかと思っております。今お話いただいたように本当に大きくくりのところの目標というのも、もう一度検討させていただければと思います。総合計画の関係でいうと「みんなが創る」という言葉が入っているから、今回の計画で必ずしも入れる必要があると言われるかもしれませんがそうでもないです。また、高齢者の計画においては、高齢者が主体ですけどもそれを支える一般市民も対象になってくるわけですが、「高齢者が」という主語にしなければならぬというわけではないと考えております。以上です。

佐藤会長

皆さんよろしいですか。

M 委員

今の説明でわかりました。ありがとうございます。

佐藤会長

今のようなご意見もあったり、別にこれでいいのではないかという意見もあったり何でもいいのですが、理念の部分で、皆さんいかがですか。

D 委員

私も M 委員と一緒に、「みんなが創る」に違和感を覚えている、例えば「みんなで考えて創る」という方がいいかなと思いました。あと基本理念①の方で私がイメージして考えたがあるので、市の方で参考にさせていただければと思います。「健康長寿の幸せを実感できるまち」という、先ほど M 委員が言っていた「高齢者向け」、「いきいき」という言葉があって、いきいきということは健康長寿ということなのでそういったコンパクト化もしていただいてもいいのかなと思います。以上です。

佐藤会長

ありがとうございます。いい流れできていますよね。あと何かご意見いかがでしょうか。事前に見てきてこうだよとか。E さんいかがですか。

E 委員

コンパクトで言葉が重複しない方がいいなと思います。

佐藤会長

そういう意味では目指す姿を抽象的に引き上げて、そういうふうな感じで暮らせるといいねというような感じですね。さっきおっしゃっていただいた、「健康長寿の幸せを実感できるまち」は比較的わかりやすくいいと思います。他の皆さん、それをベースに何かご意見ありますか。

A 委員

「共生社会」とか「多世代がともに支え合い」をおそらく強調したかったのかなと感じました。だから「多世代」「共生社会」というところを、先ほど、D さんがおっしゃった「みんな」を「共生」「多世代」としてとらえるのか、私の中で考えながら変換したところであったのですが。

佐藤会長

確かにその辺の要素はあってもいいかもしれないですね。思ったのは、「健康長寿の幸せ」「健康長寿の幸せを実感できるまち」について、幸せとか健康長寿って 1 人で頑張っても限界があるので、例えば「人と繋がりながら健康長寿の幸せを実感できるまち」とか。1 人で健康長寿というよりは、ある程度周りとか繋がったり関わり合ったりしながら暮らしていくのかなという、イメージはあってもいいかなと思います。

ました。皆さん、どうでしょうか。

M 委員

最後に、「みんなで創る」という言葉を入れるというのを考えていきたいです。Dさんの意見をいただくと、「健康長寿の幸せを実感できるまちをみんなで創る」とか、共生のことは頭にあったので、勝手に自分で案を考えているときには、市だからみんながつくるって言葉を入れなきゃ駄目なのかなと思いつつながら。そうすると後ろに持ってきた方が、みんなで創ろうというふうになっていいなと思っていました。

佐藤会長

あまり正解がないので、大体意見出たところで1人一言ぐらいいただけるといいかなと思いました。Bさんからいかがですか。

B 委員

今お話に出ていた、理念があって目標があってというところでは本当にかぶらないほうがいいのかと思いました。「みんなが」というのはやっぱり室蘭市としては入れたほうがいいのかというのはよくわかります。最後につける方が聞きやすいからすっと入りやすいという感じがします。やっぱり受け入れてもらわなければいけないので、聞きやすい言葉が一番いいかなと思いました。

C 委員

先ほどDさんがお話しした「健康長寿」というのがすごくいいことで、長寿だけではなく、健康でなければというところがあるので、ここは強調していきたいなと思います。あとは、「多世代」「共生社会」も必ず必要になってくることになるかと思うので、いい案を出していただいてありがとうございます。

F 委員

理念の中で「みんなが創る」など、いろいろ「みんな」という言葉でもって、皆さん発言されていたのですが、私は別の視点があります。みんなというのは責任感がない感じがします。自分はどうするのか、自分はどう向き合っていくのか、個人としての意気込みが全く見えてこない。「誰かがやるのだ、それに付いていけばいいのだ」という感覚が出てきているので、私はあまり好きではない。個人としてどうするのか、自分としてどうするのか、その辺のことを盛り込んでいったらいいかなとは思っています。そして幸福感というのは、前の資料にもあったとおり、健康になれば幸福感が増す、自動的に上がっていく。全くその通りであると思います。体調のいい時は、黙っていてもその日が楽しいというのは本当にそうです。自分は病院にかかっていませんが、何もしなくても、ご飯を食べるときに椅子に座っても、幸福感があります。健康と幸福がイコールだと思います。この2つが私の意見です。

佐藤会長

ありがとうございます。「みんな」というのはある意味自己責任的なニュアンスが少ないのではないかというご意見でした。「みんなで創る」以外に代替案はないですか。逆に「みんなで創る」と入れない方がいいですか。

F 委員

特にはないのですが、もしこの中で個人というフレーズみたいなのがあれば、入れていただければいいなと思います。

佐藤会長

わかりました。ありがとうございます。Gさんよろしく願いいたします。

G 委員

いろいろお話をお聞きしまして、健康長寿という言葉はやはりいい言葉だと思います。あと、私個人の意見なのですが、高齢者の計画なので、「高齢者」と入れてもいいのかなと思ったところです。

H 委員

理念は皆さんのご意見に、なるほどと思います。私は基本目標 1 の背景の言葉の方が引かかって、「病気や心身の機能低下と共存しながら」とはどういうことなのだろうと思います。とてもマイナスなイメージを高齢者は持っているのではないのかなと思うので、プラスの表現があってもいいのかなと思います。それでフレイル予防の初期アウトカムが「筋力の維持」なのか、それは不思議です。今回認知症予防だと当然入るでしょうし。先程言われたように、初期アウトカムは歩行量の維持でもいいのではないかなと。実際ここは健康長寿から国が発表されて、歩くようにとやっています。だからそれに乗っかってもいいのかなと。筋力というすごく狭い領域を使っているなという印象がしました。

佐藤会長

ありがとうございます。その辺は本当に議論をしたいです。1 ページ目の理念は特に大丈夫ですか。そしたらいろいろ今意見出た「健康長寿」「幸せ」などは。

H 委員

「室蘭が好き。みんなが創る」というところは、なぜ「が」にしたのかなと思います。「みんなで」でいいのではないかと思います。「が」というのは命令的でお前らがやれみたいな感じがして、「みんなで」としたら室蘭市民も含めて、みんなでやろうという意味に変わるので。「が」は命令的だなというのが気になりました。

佐藤会長

ありがとうございます。後程施策の方を話しますのでその時にご意見お願いします。Lさん、お願いします。

L 委員

理念については、今の時代の中で強調したい部分が②の「多世代」という部分で伝わるし、もっと世代を幅広くとらえてということで、強調したかったのだと思います。例え基本目標とかぶってしまっても、重要なキーワードなのでよいかと思います。

佐藤会長

多世代は「みんな」に包括されるけど、やはりキーワードなので良いのではないかというご意見ですね。ありがとうございます。Iさんお願いします。

I 委員

先ほどありましたように、私も「みんなが」ではなく「みんなで」にすることで、Fさんが言うように、一人一人に関わってくる表現になると思います。あとは「健康」って誤解を招きかねないと思います。先ほども背景にありましたが、単に病気にならないことが「健康」ではないです。ウェルビーイングというのが、SDGsとかであります。幸福感というふうな部分もありますので、「健康」とすると理念としては誤解を招きかねないかなというようなところは感じていました。

佐藤会長

ありがとうございます。「健康長寿」という四字熟語でいくと問題はありませんが、「健康」だけ取り上げるとウェルビーイングよりは狭くなってしまおうととらえられるのではないかという思いですよね。その辺はごもっともです。僕らある程度専門性がある中で議論しているので、一般の方が「健康長寿」でイメージするものと、僕らが細かな意味でとらえる「健康ウェルビーイング」というのは、微妙に違うかもしれませんが、一般の人のとらえる意味で考えるのがよろしいのかもしれないです。

J 委員

基本理念は基本目標の上に立つ大枠なので、基本理念をもとに基本目標は設定されるので、かかっているところとかかかってないところが出てくると、あまりよろしくないと思います。先ほど「健康」というところもあったのですが、下の背景の部分も全部健康でなくなってくるような、「健康寿命」「健康長寿」「幸福」の定義とかも、もう少しいい言葉がないかなと思いました。目標と理念がかかったような言葉がもっとあればいいかなと思いました。

佐藤会長

「健康長寿の幸せを実感できるまちをみんなで創る」が第一案になってはいますが、Jさんの話だとこの目標ともうちょっと重ねた方がいいということですね。あんまりかぶらないほうがいいのかってというご意見と目標と寄せた方がいいかもしれないという意見がありますね。

J委員

基本理念をどうやってやるのだとなったときに基本目標があるので。離れるよりは近づけた方がよいです。

佐藤会長

「健康長寿の幸せを実感できるまちをみんなで創る」ための目標が1・2・3ということです。事務局から出してもらっている案のため、僕らは答えを見ているような感じで議論していますが、普通にある程度理念を作って、そのあとにそれに基づく目標を作っていけばいいので、多少目標の文言とかも変えてもいいと思います。そこはそんなに考えなくてもいいのかなと思いますが。じっくりくる理念をまず考えて、その後この2ページ目に入っていくという流れでよろしいかと。それでは、Nさん。

N委員

今日は皆さんの意見を聞いていましたが、ずっと心に残っているのが、「健康長寿」と「みんなで創る」です。難しい言葉を並べるよりは、健康長寿は心の病気も病気だと思っているので、普通の生活をしていると、病気というと大まかなことを想像するので、「健康長寿」と「みんなで創る」という言葉を入れていただければ、入りやすいかなと思いました。

佐藤会長

皆さん貴重な意見ありがとうございました。「健康長寿の幸せを実感できるまちをみんなで創る」というところでまとまってきたのだと思います。先ほどLさんがおっしゃっていただいた「多世代」は「みんなで創る」というところの「みんな」で含めていると考えるか、「多世代」という言葉がいいのか、何かこの辺ご意見どうでしょうか。

A委員

先ほどNさんがおっしゃった、一般市民でもわかる基本理念がいいかなと私も感じます。でもこの背景の中に、その「多世代」とか、「障害」があっても、「子ども」でもというその共生社会ということが背景にあるのだということが、共通理解

できていたらいいのかなあというふうに思います。基本目標の中にも「多世代」とか「共生社会」という言葉が入っておりますので、よろしいかなというふうに感じました。

佐藤会長

ありがとうございます。私も同意見です。目標のところでもそういった多世代感を出していくのでいいのではないかなと思いました。そしたらこの会議として、基本理念は「健康長寿の幸せを実感できるまちをみんなで創る」ということのできたいと思えます。ありがとうございました。

続きまして2ページ施策体系の方に行きたいと思えます。

初期アウトカムについて、1個1個どうやって実現できたのか、測ったり証明したりするのかなと気になったのですが、事務局にまず質問します。

先ほどアウトカムの話がありましたが、例えばフレイル予防なのに、認知症とか認知機能が改善するとか、このあたりどう決まっているかを教えていただいてもいいでしょうか。

例えば筋力維持と書いていますが、施策を行うことで筋力維持ができた、ということでのこの目標は達成された、と考えるということですよ。

事務局

施策の展開の方で、評価の指標としてお出しする方向で考えています。例えばニーズ調査の中にもあるような運動機能低下の割合とか、そういったところから、初期値と、3年後どうなっているかというような指標になるかと思えます。あと、社会活動のところに関しては、筋力の維持にも関わりますが、ウォーキングの習慣のある人の人数ですとか、そういったところの指標としてお出しできるかなと考えているところです。

佐藤会長

わかりました。Hさんいかがですか。

H委員

アウトカムが「筋力の維持」というのは、PTが考えつきそうな感じですが、一般市民に置き換えたときに細かすぎるイメージです。歩行とか具体的な日常生活活動のなかで目標値として持っていた方がいいのではないかなと思えます。国が実施している調査結果では、一番怖いのは認知症の発病と歩けなくなったらもうおしまい、というこの2つです。そこら辺を意識されたほうがいいのかなというふうに思っているわけです。

佐藤会長

この辺りは僕らどのぐらいまで突っ込んでいけばいいですか。

事務局

成果の体系のところに関しては、項目に違和感がないかというようなご意見をいただけると助かります。

佐藤会長

わかりました。目標について、基本目標の1「健康で生き生きと喜びのある暮らし」、2「必要な介護サービスや社会資源がある安心な暮らし」、3「多世代がともに支え合う、交流のある暮らし」、それでめざす姿が横に書いてあります。1個1個というよりは、全体に対してご意見いただければということと、めざす姿のところの表現ということでしょうか。いかがでしょうか。

M委員

それでは意見と質問を分けてお話しします。左の1ページの表について、背景を読むと、こういうふうな生活したいとか、こういう年寄りになりたいというような高齢者の願いなのではないかなと。だから、僕みたいな者が読むときには背景というよりも、高齢者の願いというふうにした方が、こういう願いがあるからこういう目標を立てて、こういうところを目指していくのだということがわかりやすいかなと思います。

それから基本目標1の「人生100年時代」という言葉を使っているのですが、これどういう意味で使っているのでしょうか。僕はこの9期という限定された目標には相応しい言葉ではないなと思いました。一般的に言われている「人生100年時代」だとの外れだから、何か意味があって使っているのかなと思いました。

それから基本目標1の「共存しながら」という言葉も引っかかって、右の2ページの方では、「予防」という言葉を使っています。だから、右側の体系とこちらの表現が合っていないというふうに思いました。合っていないというふうに思ったのは、基本目標3のめざす姿と、右のページのめざす姿について、全部使っている言葉が違ってイコールになってないです。左と右の表の言葉が違うので、それは全部見比べて、どちらかに合わせないと計画として成り立たないなと思います。

基本目標1の背景の「喜びのある暮らし」という言葉の意味がわからなくてどういう意味なのかなというところ。それから、基本目標3の言葉について、他の目標は「〇〇のある暮らし」となっていますが、3になると「共生社会へ」と切れている。これはもっと語尾を合わせた方がいいなと思いました。共生社会をつくるということであれば、めざす姿が2つありますが、その語尾は「姿」ではなくて「社会」になるのでは。共生社会のことを言っているわけだから、ここは「めざす姿」ではなく「〇〇をする社会」なのではないでしょうか。

左のページでは最後ですけど、「尊厳のある姿」という言葉を使っていますが、

「尊厳のある姿」というのが全くイメージできなかつたです。「尊厳を守る社会」とか、そういう言葉遣いならわかるけど、「尊厳のある姿」とは何かなというふうに思いました。

佐藤会長

ありがとうございました。文言の不一致については、今後議論に影響してくるので事務局の方でお答えをお願いします。

事務局

表現に関しては、少し不一致があり、計画としてお出しするにあたって適切ではない表現がある部分も感じておりますので、素案の方で修正できる部分は修正したいと思います。

詳細が2ページ目の方にまとめられておりますので、2ページ目の表現や内容に関してご検討いただきたいと思います。

佐藤会長

この背景は願いなのではないかという話がありました。これはそういうことでいいですか。「尊厳のある姿」というのは、やはり認知症を持ちながらいかに尊厳のある暮らしを、ケアの中で実現していくかを日々やってらっしゃるので、Eさん何かありますか。

E 委員

今日の資料を見ると「尊厳」というのがよく出る言葉ですけど、よりわかりやすくすると「生きがいがある」というような言葉が教科書でもよく出てくるので、そういう簡単な言葉の方が市民の方にもすっと入るのかなと思います。

佐藤会長

確かに「尊厳」は使わないかもしれないですね。貴重なご意見ありがとうございました。

F 委員

介護する人が暴力を振ったり、暴言でなじったりとかということがないように、尊厳をもって接していこうというのが込められているのかなって思いました。

佐藤会長

それはもう当たり前で、例えば僕の理解ですが、認知症で全く疎通ができなかつたり、自分で意思が出せないような感じだったとしても、この人はこういうことが好きな人だったよねとか、この季節こういうことやって過ごしていたよねということで、

その人らしく生きがいをもって最期までいかに生きるかみたいなことを周りが考えてあげるようなケアをしていくというイメージなのだろうと思います。

F 委員

実際自分の体験からの話ですが、認知症になってもできることをしながら尊厳のある姿、この尊厳というのは認知症の人に対して言っている言葉みたいにとらえるのですが、認知症の人は尊厳とかそういうスタイルではないのです。認知症になると暴力を振るうこともあり、そういう姿を見て尊厳のある姿を求めるということは難しく、むしろそういう方に対して、我々が尊厳を持って接する、という方が理にかなっていると思います。

佐藤会長

ありがとうございました。そういった入りづらかったりわかりづらかったりするものをこの基本目標の目指す姿で見えていくというのがいいかもしれないですね。Bさん、お願いします。

B 委員

事務局の方に聞いたかったのですが、この1と2の表は市民に出る形なのか。この場ではこう表現されているが、市民向けには違う形の表として出てくるのか、それによってまた言葉のニュアンスが変わってくる。やっぱり市民向けだと難しい言葉を使ってもわからないだろうし。受け入れできないと思うので、そこを聞きたいのですがお願いします。

事務局

2ページ目は市民向けにお出しすることになると思います。1ページ目の基本はこのような形式で計画の中に入ります。2ページ目の表は、理念を考える上でよりわかりやすくイメージつくようにということでまとめてお示ししています。

B 委員

ありがとうございます。この2ページの中で、グレーになっているところも出てくるという形なのか。人生100年時代とか少子化、少子高齢化とかという言葉も出てくるのですか。

事務局

こちらに関しては削除する予定はありません。ただ、なくてもいいのではないかとのご意見が多いようであれば、必ずしも必要というわけではありません。

この体系表に関しましては、基本的にはこのまま計画に載せたいという思いで、皆さんにご検討いただいているとふうにご認識をいただければと思います。また、今の

人生 100 年時代という部分で、左側の表では背景と、先ほどご指摘あった部分もありますが、背景という形で今記載させていただいていますが、表現も含めて、これはない方がいいのではないかというご意見があれば、それはそれで私ども修正させていただきたいと思います。

また、めざす姿に関しましては、多分一番下の認知症になっても、できることをしながら尊厳ある姿というこの「尊厳」について、高齢の方の一人称になって考えてみる場合、市役所として考えてみる場合、社会として考えてみる場合でごちゃまぜになっているという印象を皆さんに与えるのかなと改めて見て思います。そのため、例えばこういう一人称で固めるべきなのか、社会として姿を求める姿をお話すべきなのか、計画に載せるべきなのかという観点も含めてですね、多種多様なご意見をいただければ、私どもで次回素案としてまとめさせていただければと思いますのでよろしくをお願いします。

B 委員

もう 1 点いいですか。中間アウトカムのところ、「フレイルの予防」と書いているのですが、70 代・80 代の方に言ってわかるのかなと思ったのですが、何かわかりやすい表現に変える方がいいかなと思いました。

佐藤会長

これに代わる良い言葉って I さんとか H さんとかいかがでしょうか。ないからフレイルという言葉になっているというふうに理解していますが。

I 委員

フレイルに関しては、国も国民に対して浸透させていくという動きがあります。そこが市民権を与えられていないということもあり、そこは一生懸命これからやっていかなきゃいけないところでもあるのかなと思います。それは市民の方々が一生懸命啓発、啓蒙していくべきだと思います。わかりやすい言葉というと、虚弱、サルコペニア、ロコモティブシンドロームとか、そういった様々なところがありますので、フレイルに関しては筋力の維持だけではないですし、閉じこもらないように社会的な部分もありますし、認知症もありますので、これを一つの言葉でいうのは難しいと思います。

H 委員

時代背景から言いますと、昭和 50 年代に国が行った調査で、なぜ日本人は寝たきり老人が多いのだろうということで、最初脳卒中と言われていました。ところが脳卒中ではない方も寝たきりになっている。ということで更に調査を進めていったときに、出た答えの一つに竹内先生が浸透させた「閉じこもり症候群」というのがありません。要するに閉じこもることで心身機能が低下して、意欲も低下して、あと友人知人

が亡くなったりとかして、閉じこもって、「閉じこもり症候群」が生じて寝たきりになる。ずっとまだ閉じこもりの議論はあるのです。フレイルを別の言い方でいう「閉じこもり症候群」と言うのですよ、わかりやすく言えば。それをフレイルという言葉にして、フレイルの要素の中には、閉じこもりからスタートしている。

M 委員

フレイル予防について、注射をつける。介護が必要になってくる状態になっていくのだよとかを説明するとか、そういうぐらいしか提案できないですけど。

佐藤会長

国が確かにフレイルと言うのは進めていますし、今、Mさんがおっしゃっていただいた、このまま残しながら注射をつけるみたいなパターンが一番ありかもしれないです。これはこれぐらいの議論にして、事務局で進めていただけたらと思います。

部長さんにおっしゃっていただいためざす姿は一人称によって違うというのは確かにそうだと思って、高齢者がどういう姿になってほしいということと、社会がどうなってほしいということと。姿で終わっているとか、環境で終わっているとかいろいろあるのですが、この辺は事務局でまとめるにあたって多分審議出すときに同じわかりづらさがあるだろうということなので。この目標自体は暮らしという形になっているので、市民の目線からしたら一人称ですよ。自分がどういうふうな高齢者の姿がいいよということがあった方が、わかりやすいのではないかと思うのですけれど。

2番目あたりは、もうちょっと一人称っぽく、「高齢期に必要なサービスや社会資源を利用できる姿がある環境」など。一人称に統一していくという大きな方向性はそれでよろしいですか。

後はどうでしょう、皆さん気になる表現とか言葉とか何かありますか。

M 委員

すみません、さっき話した100年時代の意味を聞きたいです。

事務局

一般的に言われている文言を背景として掲載した形でございますので、深い意味は特にございません。書いた者が本日おりませんので。3年計画で100年時代という表現を入れるかどうかという議論を言われた場合ですね、なくてもいいのかなというふうに個人的には思いますので、そこら辺も皆さんで意見を交わしていただければと思います。

M 委員

室蘭市なりの解釈があれば僕も全く問題ないと思うのですが、一般的に言われている100年時代というのは、今のお年寄りが100歳まで生きるって意味ではない

ですよ。今の若い世代だったら100歳までいけるよということを言っているのです。ただ、例えば、「平均寿命が何歳を超えてきた今」とか何かもっと、自分たちにあったような言葉を使った方がいいのかなと思います。

佐藤会長

ありがとうございます。

H 委員

マイナス的な表現は加味していただきたいとお伝えしたのですけれども、ここは「健康寿命」をいかに伸ばして、いつまでも元気で生活できるようなまちづくりをしたいという意味ですね。「健康寿命」というのはよく使うキーワードのような気がしたのですが。

佐藤会長

そういうことだと思います。実は事務局から私聞いたのですが、これ作った方が急遽休みでということでしたので、失礼しました。他いかがですか。

H 委員

引っかけて気になっている事項に「多世代」というのはどういうふうに使われているのかわからなくて。一般論ですが、地域包括ケアは地域で支える仕組みづくりですね。その地域の中で支え合う中で、多世代もあるとか。ただ、お元気な高齢者の方が、虚弱な高齢者を支えるのも含む時に、地域で支えるまちづくりとかというのは、一般論なのですよね。ただ、地域って何だろうということがよく出てきて、地域って広いのではないかというけど、現実にはコミュニティケアで、元々イギリスからスタートした町内単位で支え合うというシステムですよね。だから地域というのは町内会レベルの話ですよね。だから地域という言葉が広いと一般市民に捉えられるのだったらこれに代わる、要するにこの町内会単位ですね。包括センターのある中学校区とかね。その地域の特性とか山坂とか、物理的なことも含めて、自ずと特色が出るはずなのですよね。そういうふうに、具体的な行動計画を作っていくのが一般的だから、各包括の意見が並んでいるような事業計画もあるので。地域包括ケア支援センターは地域と付くため、地域というキーワードが一番しっくりきます。

佐藤会長

例えば基本目標3で、町内会でともに支え合う。例えばそんなニュアンスですよ
ね。

H 委員

そうです。自治会で支える、そんなイメージ。基本的には町内で支えるためのシス

テムが地域包括ケアですので。

佐藤会長

この辺はどうなのでしょう。私も地域包括ケアシステムのイメージでいるので、多世代というものと地域包括ケアというものとかがぶるとこもあるけどかぶらないところもありそうですけど。

H 委員

包括ケアって輪の中に多世代が支えているのですよ。地域包括システムの中には、医療や介護サービスも含まれますから。そうなると、室蘭市としてどうやって支えるかという意味にも昇華してくるのではないかなという気はします。あとは地域で支えなさいよ、というふうに促される。

佐藤会長

基本目標 1 の「健康でいきいきと喜びのある暮らし」は、その人が自分で頑張って介護予防やろうということ。2 番が医療介護を含めたオフィシャルなリソースを上手く使うということ。3 番は非公式的な民間的な人の繋がりをつくりながら暮らそう、というようにも見えました。この辺どういう文言にするかは事務局に最終的にお願いしましょうか。ご審議ありがとうございました。続きまして、個々の課題ということで地域包括ケアシステムについて事務局お願いします。

事務局より説明

地域包括ケアシステムについて

佐藤会長

ありがとうございます。1 回目で皆さん議論されて、そこから地域包括ケアシステムでどういう資源があるかということを新しくまとめていただきました。それぞれ課題などありますが、その中で優先順位とかそれぞれの立場でここは重要なのではないかな、こういう課題があるのではないかなど、ご意見いかがでしょうか。

B 委員

自分が養護老人ホームで働いている関係で、要介護 1・2 と要支援 1・2 の方々の行き場所がないというのが、室蘭市の現状なのかなと思います。認知症があるとグループホームに行きますが、ない人はどこに行くのか。行くところがないところで、今そこが一番問題なのかなというのは思っております。施設自体もまだ増やすというわけにもいかないとか。そこは室蘭市とも話をしていかなければいけないと思うのですが、全体を見てもそこは充実するべきで、行く場所がないというのは問題があるのかなと思います。在宅で暮らしていけるのだったら、それはそれですごいことな

のですが、どうしても身寄りがなく施設でとなると、受け入れるところがない。養護老人ホームでお願いしたいとなると、今度はお金の問題が出てくる。高額の年金をもらっている方は入れない。入所施設がもういっぱいになって行けない。地域包括ケアシステムなので、在宅でみんなで頑張ろうと言っている、なかなかそこが浸透できないというような現状があるかなと思って、その強化というのは必要ではないかと思っております。

佐藤会長

ありがとうございます。医療とか認知症とかそういうものはないけど2とか3とかで家では難しいという人ですよね。入る場所がないということですね。あとはどうでしょうか。Eさん、お願いします。

E 委員

介護サービス事業者としてなのですが、課題の部分は介護人材の確保だけになっていきます。3ページの介護予防と一緒に、室蘭市内にいっぱい介護施設があるという強みがあるのですが、その介護予防と一緒に、その強みの周知不足というところがあるのかなと思います。今に参加しているだけでも養護老人ホーム、グループホーム、地域包括支援センターがあるのですけども、市民の方がその特性をどのぐらいを周知しているのか。介護保険サービスは自分で選んで契約して使うものですが、そこまで繋がっていないのではないのかと感じました。

佐藤会長

その辺何かありますか。

H 委員

まさにEさんがおっしゃったとおりです。そういうのは現状と課題とか、それから目指す方向性とか、想定される成果というのが中にまとまっているのですが、課題で止まっているのですよね。だからそれをどうしようかというところで、例えば今の強みの周知不足があるという点で、どういうふうにしていったらいいのだろうかというところが僕は知りたかった。この計画の中には載っていないのはいいのかなという疑問はありました。

佐藤会長

おそらくそれをこの大枠を決めた後にその課題をどう解決するか細かなところは、この計画をもとに、市が1個1個考えるという感じになるのだと思います。またご意見があれば、冒頭にFさんのようにアイデア等いただけたらと思います。

N 委員

いろいろな施設が分かれていたり、年金が高かったら入れなかったりとか、要介護どうだとかというのは全くわかりません。全然理解してないのですが、私の場合はケアマネージャーがついているとすべてクリアでした。ケアマネージャーがついている方とついていない方では全然違うと思うのです。ケアマネージャーがついていたら、どうしようか、これどうしたらいいのだろうかということは一切なかったです。もうすばすばと方向を決めて、それならこう、それならこうと決められたのですごいなというふうに思います。介護保険制度ができて、それからそういう形の道筋がもうはっきりしているのだなというのは理解できます。ただ、認定を受けてない方はどうしたらいいのかというのは私の周りでも何人かいますので、だからそういう人たちがどこでどうしていくかということが一番大事だと思います。

佐藤会長

包括の話につながりますが、その辺どうですかね。LさんとAさんのお立場から見てこの資料について何かコメントはありますか。

L 委員

周知が足りないと言われれば、我々もまだ不足の部分があるのだろーと思いますが、なかなかその発信対象が固定化されている。具体的なことを言うと、周知活動とか、啓蒙活動の場というのがあるけど、そこに来る顔ぶれが同じなのでそこをどう広げていけるかですね。それは事業だけではなくて、フレイルの話などそういったことも含めて、どれだけ多くの人々の耳に届くような訴えかけができるか。高齢者やお子さんとか、そういった若い世代とかにもきちんと伝えていく工夫をしていかなければいけない、というふうに現場の人間としては思います。

A 委員

私も包括の立場としてですが、ニーズ調査の結果で相談窓口を知らない人が60%、知っている人は33%という値を見たときに、周知不足だなというふうに感じています。介護予防教室やサロンをたくさん行っていたが、コロナ禍で3~4年くらい実施できなかったことも少し影響しているのかな、というような印象は受けません。ただ、ホームページを毎回更新するようになり、若い世代の人たちがホームページを見るようになって、ホームページを見て相談のメールが来るようになったというのはすごく感じていたところです。ここ数年ではホームページを充実させないといけないなというのはすごく感じていたところです。また、調査内では、年金が少なくても入れる施設はあるのだろうかという話はたくさん出ていたのですね。要支援1・2の方とか要介護1・2だと特養に入れない現状の中では、有料老人ホームでもやはり国民年金では入れない、高齢者住宅というふうによく言われているところですけど、1か月10万を超えてしまうのです。これは全国的な問題なのかなと思います。年金が少ない中でも入れる施設が養護老人ホーム、ケアハウスももう今80人も待って

いるような状況なので、そこについては、やはり課題だと感じます。

F 委員

介護予防で確認したいのですが、上から3つ目のところで、自然環境ウォーキングコースがあると書いてある。ウォーキングコースは特別に指定して歩いてけるように整備されている場所という意味なのでしょうか。

事務局

室蘭市すこやかロードというウォーキングコースが2か所設置されています。全部アスファルトの道路というわけではないのですが、歩きやすいコースであること、景勝地があること、お手洗があること、という条件で道の健康づくり財団で「すこやかロード」という認定を受けた、歩きやすいコース2か所を設定しています。

F 委員

自分も歩いているのですが、例えば、家から出てこのウォーキングコースまで行くということはないです。散歩というのは家から出て、家に戻ってくるというのが散歩なので。要するに室蘭市内どこを歩いてもいいと思いますけど、特に指定しなくても、交通の安全性だとか、安全体系をチェックしてもらおうとか、そういう方向に力入れてほしいと思っております。くじらん健康ポイントがあるが、全く高齢者には意味がないです。ポイントとったからどうということもないのです。それよりも、高齢者ばかりではなく、若い人も誰でも毎日安全に歩ける環境を作っていただきたいと本当に思います。

佐藤会長

ありがとうございます。ウォーキングコースは2ヶ所ですか。あとどうでしょうか。Iさんお願いします。

I 委員

介護予防について、先ほども周知不足の話がありましたが、住民主体、自主性というか、町内会単位とか、そういったところで集めていくというところで、徐々にその講師が、別に私たちのリハビリ専門職とかでなくても、住民の方に覚えていってもらってやっていくような教室をしていくというのも1つの手です。また、基本目標の2の介護の人材の確保というのがありますが、減っていくのが目に見えています。茨城県の実践では住民互助の実践と自助で病気にならないように守っていくというところが、予防でも大事と言われているところもありますので、新しい方向実践というのを予防の1つの実践としていくというのがいいのかなというふうに思いました。

佐藤会長

教えてもらった人がさらに講師になってということでしょうか。Jさんお願いします。

J 委員

同じく介護予防について、ここに参加されている方というのは結構、自発的に運動されている方、ここに参加してこない方たちというのが問題だと思って、その人達にどうやってアプローチするというのを課題として考えていただければと思います。

N 委員

資料を見ると周知不足や担い手不足ということもありますが、地域というのを町内会に絞って、例えばお買い物でもスーパーの方に来てもらって町内会の会館に来る、それからあと、歩くのだったら近所を散歩しようなんかで、転んでも危なくないようにとか、町内会を強化するという事は可能なのでしょうか。例えば、えみなメイトとかここに施設があっても、全部室蘭市として増やしていつているので。それを町内会にすると、例えば民生委員とか児童委員とかいなくても、町内会長と包括が一体となっていて集まる機会が町内会に多ければ、誰が病気になったよとか、転んだらしいよとか、そういうのは町内会の中で話ができるので、あえて見守りをしなくても、みんなで見守っていく。それから町内会は若い人たちも入っているので、町内会を強化する資金を市で出してくれれば、助かるなと思います。

佐藤会長

貴重なご意見です。高齢福祉課ではないですけど、学校区とかで、都市計画ですかね。まちづくりの若手のグループを育てて盛り上げていこうみたいなことはやってはいますね。うまくいっているかどうかはわかりませんが、町内会も多分高齢化をしているはずなので。町内会から地域コミュニティを良くしてくれたらいいですね。

F 委員

私は町内会を頼るという考え方と違うとは思いますが。自分も前は町内会に入っていたのですが辞めました。辞めた人はたくさんいます。まず、町内会を信用できなくなったわけです。というのは、認知症に対して町内会としてどう向き合うか、町会長といろいろ話したのだけど、全然乗ってこないし、そういうのは町内会としてはタッチしないという考え。あとは環境問題に対しても、ごみの収集、その辺の散らばったゴミの清掃活動をどうするという話はその場所でやってくれ、何かあったら警察や俺に言ってくれと、会として改善していく、何か立ち上げるという考えは全くないのです。それで町内会を辞めて、自分でゴミステーションの周りの清掃活動とか、あるいは雪かきの会に入って認知症のいろんな話を聞いたりしていつているんですけども。何かを挑戦していくような環境も全然ないので、町会では一線を切って辞めました。

事務局

町会全体の話について一言よいですか。先ほど地域という概念で町会というお話があったと思うのですが、皆さんおわかりだと思っておりますよ。町会も人手不足で、なおかつ非常に町会の運営自体も厳しい地域もでてきていまして、先ほど地域という表現をしますと、すぐ皆さん町会とリンクして考えているというところで、町会が余りにも今人手不足で活動ができないので、町会で何でもやるという場合には考え直してくれという市全体での話も実はございます。ですので、なかなか今地域って書くとすぐ町会だということもあってですね、なかなか市全体の地域という表現をどうするかということも実はございます。地域でイコール町会を強化して、町会でやったらいいのではないかというご意見は確かにそうなのですが、なかなかそれがうまくいかないという状況ですので、それでできればすぐ解決するかもしれないのですが、なかなかそこが今市全体では難しいというのはご理解いただきたいと思っております。

課題に対して解決するということについて、忌憚のないご意見をいただきながら、計画に記載できるかどうかわかりませんが、私どもも皆さんの意見をいただいて認識して、課題についてもご意見をいただいて、計画に載せるか載せないかはこちらで意見を出させていただいて、よりよい計画とさせていただきたいというふうに思っておりますのでよろしく願いいたします。

佐藤会長

ありがとうございます。そしたらこちらよろしいでしょうかね。

H委員

3ページの図の介護の強み・課題がおかしいので、もう少し整理していただきたいです。これではただ施設がありますということを強調しているような気がします。介護で地域づくりを支える、という考え方が絶対ありますし、そのための小多機は必ず出てくるはずですので、そこはもしかしたら1ワーキングみたいなメンバーを選出して、その市の策定の原案を作っている方に対して、そういう言葉の整理とか助言をお願いするような、そういうシステムを作られてもいいのかなあと思いました。

あと地域イコール町内でさっき意見が出ましたけど、もっと多世代の方がわけわからない。

事務局

多世代は多分ですが、今中学校単位で、地域で多世代で、例えば小学生の子どもが、通学途中に新聞が溜まっている家を見つけたら、学校にお話をし、学校から地域に通報して独居老人の家庭の見守りも逆にできるのではないかと。そういう取組をやっているところが何となく多世代というイメージで、お子様から青年、もしくは高齢の方も含めて、協働で助けるという社会を作りたいという多世代というキーワード

だったのかなと思いますので、ご指摘があればですね当然修正をさせていただきたい
と思います。ただ、イメージとしてはそういうイメージだということをご理解いただ
ければと思います。

H 委員

結局やれている町内とやれてない町内があるのでやれるところでやりたいとか、議
論が尽きないというのでしょうか。それを市がどう考えるかですね。その地域包括ケ
アを真剣に考えるときに。だからうちの地域は中学校区です。だから地域といえば中
学校区というイメージをさせるために、なんという言葉を使うかっていうことでは
ね。現実、町内会連合会を組織してやっている人もいっぱいありますよね。だから、
いろいろ仕掛けができると思うのですよね。正直できないことを申しているとしか聞
こえなくて。

事務局

ご意見に対して現状をご説明させていただいた状況でございます。できないという
表現をさせていただいたつもりはないので、今お話いただいた仕掛け、具体的なお話
ですとか、いろいろな解決策を皆さんから出していただきながら、私も地域イコール
町会とは思っていませんし、中学校区とも思ってませんで、現実的にはこういう今施
策があるとお伝えしただけで、地域イコールそこという限定をしているわけではござ
いませので、そこは誤解のないようにと思います。できるかできないかは、皆さん
の解決策をいただいた中で、できるものからやっていきたいと思っていますし、私の
方ができると考えているのが確かに限界があると思いますので、こういう場を通じ
て、実際に事業をやっていただいている方の、こういう解決策があるのではないかと
いうご意見をいただく場にしていただきたいと思いますのでよろしくお願いいた
します。

佐藤会長

ありがとうございます。よろしいでしょうか。最後、介護人材の確保及び介護サー
ビスの整備について事務局からご説明をお願いします。

事務局より説明

介護人材の確保について

佐藤会長

ありがとうございました。具体的に何かこういった対策のアイデアがあるかみたい
なのも含めて、補足的にも G さんの方から状況と、何か他の業界でこういうことで
もいいのですけどね。お願いします。

G 委員

ハローワークでということ、この前のお話の通りですね。求人はいただいているのですけれども、なかなか応募までには至らないところがあります。このままで有効求人倍率ということではいけますと、室蘭でも1割を超えているのですよね。介護ですが、看護助手とかそういうことでいうとそれも2倍以上になっていまして。求人をしていただいているのですけれども、なかなか応募する方がいないという状況になっております。この前のお話の中、私どもとしてもある中で皆さんが選んできたものに対して、どうですかという話はしていくので、こちらの方からいろんなものがある中で介護はどうですかって話も提案はしているのですけれども、介護はどうですかとピンポイントで言うのはなかなか難しいので、そういったことはハローワークの立場ではなかなかできないところもあります。全体として求人をいただいている中で、ハローワーク室蘭として応募前職場見学をしております、あらかじめ応募前に見に行ってもらって、その事業所の雰囲気を見てもらって、それで最終的に応募を決めてもらうというのやっています、それは介護の会社もあります。それを行うことによって、入社してから違った、思っていたのと違うというのを回避できればと思っています。その中で希望していただければ、もちろん介護も見てもいいと思います。そういうことは言っていけるので。そういったことも積極的にやっていければ、少しずつ増やしていけるのかなと思っています。

佐藤会長

ありがとうございます。あとどうでしょうか。

D 委員

ペーパーにして市役所の方に提案したいと思うのですが、ただ直近の話で言うと、今の高校生に話を聞くとやはり賃金安いとか、いろいろやりたくないというのがあって、ここでは高校生のご意見として言わせてもらおうと思います。アルバイト時給1200円から1500円ぐらいだったら、デイサービスのアルバイトとかをやりたいという子が結構おります。まずその高校生や中学生など若い層に動画とかパンフレットで出前講座をして、体験といいながらも報酬をもらえるような形でそ野を広げていったらいいのかなというのが話を聞いて思いました。足りない部分はやはり外国人というところになっていくのかなと思います。外国人に対する経営課題や受入の予定とかは研修会を開催して、受け入れ体制をとっていく必要があります。そうやって人材の不足を埋めていくしかないのかなと思います。

佐藤会長

ありがとうございます。Aさん。

A 委員

ニーズ調査を見ると、第1位は魅力がない、社会的な地位が低い、2位は給与が低い、3位は有休がとりにくいというような問題があります。私も周りからリサーチしたところ、実は潜在介護福祉士はいます。離職して二度と介護に戻らないという人がいます。そういう人たちをどうやって巻き込むか、ワークショップを開いて介護の魅力を伝えて、そこに就職したということもあるので、中学生、高校生にそういった働きかけをする。もう1つは、介護や育児で時間が制限されて働けないという方がいらっしゃる。ニーズ調査を見ると、介護のために働いていない人が50%くらいいらっしゃるのです。そういった人たちを、どのように時間制で働いてもらえるのか、考えられないかと思いましたが、全体で考えるのは難しいので、ワーキングなどの専門関係者を集めて検討するのがよいのかなと思いました。

佐藤会長

貴重なご意見ありがとうございます。あとはどうでしょうか。

C 委員

特別養護老人ホームで勤めているのですが、今の対策というのは本当に難しいところで、現状をお伝えしたいと思います。当施設の職員については、高齢化がすごく進んでいます。正確に計算してないのですが、平均年齢が50歳前後、一番上の職員が75歳の方が夜勤をやっているような状況です。60歳以上の方も結構いらっしゃって、若い世代が入職しないなということを感じています。ハローワークさんから紹介いただいているのが、パートさんがすごく多くなっています。4~5時間のパートさんで、主婦の方や子育てが終わった後に、4~5時間勤務する人というところが多いです。ただ、夜勤をする職員というところまでは繋がらないのが現状です。どういうふうに対策を練っていけばいいのかというのは今、詳しいことはDさんからもお話がありましたが、若い方へのアプローチというのが必要になってくると思います。

佐藤会長

ありがとうございます。夜勤とか必要ですよ。大体よろしいでしょうか。現場で工夫とかどうですかというところの意見をいただきました。今日は長時間にわたって、ありがとうございました。皆様のおかげで細かなところまで議論できました。最後事務局、よろしいでしょうか。

事務局

後日ペーパーでいただけるとお話ありましたが、それに限らず、例えばこんな事業をやったらどうかとか、そういう意見がありましたら、メールでも構いませんので、よろしくお願いいたします。

皆様、長時間にわたりありがとうございます。皆様から健康長寿やみんなで創る

というキーワードをいただきまして、そういった形でこちらの方でも基本方針を市民の方にわかりやすい言葉で組み入れていって皆様の方に素案を出したいと思います。また、地域包括ケアにつきましては、地域の実情に合わせまして、年金が少ない方がいらっしゃって入所ができないとか、非常にいろんなご意見いただきました。そういったところも含めながら進めて参りたいと思います。人材不足につきましては、若い世代のワークショップなどアプローチについても考えていきたいと思います。

本日は長時間の会議のご参加ありがとうございました。次回につきましては、11月16日木曜日を開催予定としております。内容につきましては9期の素案を2週間ぐらい前に皆様に郵送でお送りしますので、そちらについて協議できればと思います。どうぞよろしく願いいたします。本日はありがとうございました。